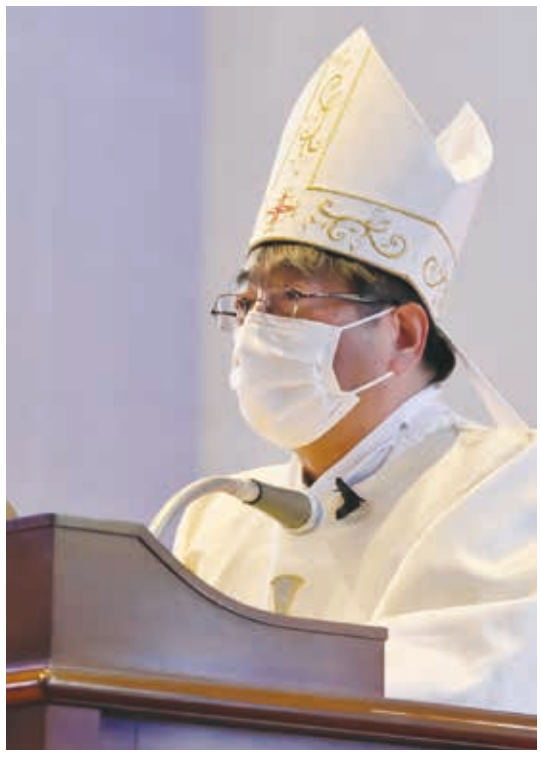
ともに復活の主を体験していきましょう

2月23日（水）10時30分から浦上司教座聖堂で、ペトロ中村倫明大司教の着座式ミサが行われました。このミサでの中村大司教の説教は、長崎大司教として語る最初のメッセージでした。今回、説教を一部追加編集したものを2022復活教書として掲載いたします。長崎教区の一人ひとりに向けられた大司教の言葉を心にとめましょう。

復活教書　着座式ミサの説教から

一緒に歩みながら

大司教 ペトロ 中村 倫明



何よりもまず、19年前に司教になられ、また18年間大司教としてこのカテドラルに着座され、このわたしたち長崎教区を導いてくださいました高見三明大司教様に感謝申し上げます。そして、たくさんのご苦労に対して「これから、ごゆっくりなさってください」と申し上げたいところですが、後任が心もとないこのわたしですから、これからも大変ですが、どうぞご指導をよろしくお願いいたします。

2年前の9月16日にこの同じ聖堂において、わたしは司教叙階を受けました。わたしの今日のいでたち、格好からしたら、あの時のものとほとんど同じです。身に着けているカズラは叙階のために作ってもらったもの、頭に被っているミトラもあの時に準備したものです。唯一違うのは、バクルス（司教杖）です。

一応、あの叙階式の時、儀式書に従ってバクルスの授与はあったんです。ところが、バクルスは統治権のしるしですから、補佐司教の時はほとんど使うことがありませんでした。そういう意味では、今回からのバクルスが実質的なわたしのバクルスとなるだろうと思います。

以前のバクルスは今日持って来ていませんが、2年前ローマの福音宣教省に赴いて頂いたものでした。素敵なバクルスではあるんですが、ちょっと残念でした。バクルスにあしらってあった十字架の反対側には、地球儀が描かれていたんです。もちろんまん丸すべてをあしらえることはできませんので、その地球儀の一部だけが現れているんですが、その部分は日本やアジアではなくて、日本の反対側の大きな国々と大陸だったんです。

このオンラインはローマにも配信されていないでしょうね。もし配信されていたら「福音宣教省の皆様、ありがとうございました。素敵なバクルスでした。でも、もしできれば、日本を描いているものがほしかったなぁと思います」。

ということで、今回は別の物を用意させてもらいました。これです。侍者の方、持って来ていただけますか。

一番の望みは、材質を金属ではなくて、羊飼いの杖を感じさせる素朴な木にしたかったということです。これはオリーブの木で作られたものです。そして、この木に、あるものをあしらってもらいました。

わたしの好きな詩の一つに河野 進先生の「説教」という詩があります。

説　教

思想の説教　聖書の説教　神学の説教　哲学の説教　教理の説教
社会問題の説教　わたしのよろこびは　やっぱり　手の説教

わたしも手が好きです。前回の叙階の時もそうでしたが、今回の着座の記念カードにも手を使わせてもらいました。そして、今回のバクルスにこそ、手をあしらってもらいました。

まず、バクルスの片面には十字架があって、その十字架からイエスさまの手が浮き出ているイメージにしてもらいました。

御子イエスさまは、神さまの手となって「わたしたちのこと大好きだよ」って、わたしたちを抱きしめるために、ご自分の愛を伝えるために、この世においでになりました。そして、その手を使って、わたしたちと握手をしてあいさつしてくださったり、友だちになってくださったり、貧しい人や弱い人に触れてくださったり、手を耳に当てて人々の声に耳を傾けてくださったり、あるいは口に手を当てて「おーい、天の国はやってきたよ」って福音を宣べ伝えてくださったりしました。

そして最後は、その手を十字架につけてくださり、手を掲げたままわたしたちをゆるしながら息を引き取られていきました。

けれども三日目に復活され、その手で「あなたがたに平和があるように」と祝福を与えてくださり、「全世界に行って福音を宣べ伝えなさい」「わたしは世の終わりまでいつもともにいる」と手を上げ、わたしたちの行く手をお示しになりながら、その後の時代の目には見えなくなっても、ともにいてくださることをお約束してくださいました。

わたしも、わたしに与えてもらっている手を使って、イエスさまのように、そしてイエスさまとともに、人々に関わっていきたいと思います。このイエスさまの手の十字架は反対側から見ても十字架です。でも、反対側から見た十字架は、色の違ういくつもの手がつながり合ってできた十字架です。いろんな人がともに手を取り合って、ともに語り合って、ともに祈り合って、協力し合って、支え合って、主の道を一緒に歩んでいく、それがわたしたちです。そして、そこに主はともにいてくださいます。どうぞ、イエスさまの手に支えてもらいながら、わたしたちも一つになって歩んでいきましょう。「ともに」これが、今回のわたしたちのテーマ、そしてシノドスのテーマでもあります。

先ほど、このわたしの前に、教区の代表の方々が進み出てくださって、「あなたとともに歩みます」という温かい励ましのお言葉をくださいました。ありがとうございました。わたしこそ皆様方の前に立ち、皆様方に申し上げます。

「どうぞ、このわたし中村倫明こそ、皆様方とともに、神さまに仕え、人々に奉仕するために歩ませてください。よろしくお願いいたします」

それではミサを続けましょう。今日のミサの祈願文は福音宣教を願ってのものです。そしてミサの奉献文は、「種々の機会のミサの奉献文 四（貧しい人の友、イエス）」を選びました。

わたしたちの教会が、この長崎教区が、貧しい人々、弱い立場に置かれている人々、小さな人々のことも忘れずに、ともに歩むことができるように、「神さまの救いには、誰一人取り残されることなくあずかることができる、神さまはともにいてくださる」このことをともに宣べ伝えていけるように一緒に祈ってまいりましょう。

そのためにももう一度、先ほどのみ言葉を味わいます。

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである」（ルカ4・18－19）

わたしたちはみんな、神さまから遣わされています。一緒に、ともに、歩んでいきましょう。

わたしも一緒に、ともに、歩ませてください。

一緒に歩みながら、復活の主こそともに歩んでくださっていることをともに体験していきましょう。

人事異動・任命

（　）内は前任地など

▼新大司教による2月23日付任命
司教総代理　山脇　守師
法務代理　古巣　馨師
絆の保護官　葛嶋秀信師
教区書記官　中野健一郎師

▼教区〔3月1日付　(1)は4月1日付〕
嘉松宏樹師　福岡コレジオ院長（福岡カトリック神学院養成者）
稲田伸也師　福岡コレジオ副院長(1)（イタリア留学）

▼神言修道会〔4月1日付〕
ジョナサン・レイ・ビリアコルタ師　西町助任（聖ルドヴィコ修院）
濵口末明師　横浜教区（紐差主任）
ヨセフ・ホー・ショウフェン師　名古屋教区・刈谷主任（西町助任）

▼サレジオ修道会〔4月〕
バルカザル・ペドロ師　イエスのカリタス修道女会牧野修道院（大分教区 宇佐・豊後高田主任）
長澤幸男師　東京・杉並サレジオ修道院（同修道女会牧野修道院）

ほしかげ

公開ミサが中止になり、ごミサの大切さ、集うことのありがたみを改めて感じることになったわけだが、今度はごミサの祈りの言葉が変更されることとなった▲ごミサの言葉は変わるが、もちろんその本質は変わらない。言葉が変わるから本質を見失うということはないだろうが、しかしごミサが中止になったことで本質を見失うことは懸念される▲仕え合う、与え合うというのがごミサで大事なことの一つだ。ごミサでは神さまから私たちへの奉仕がある。主の十字架と復活を中心とし、ご聖体となって私たちのところにまで下ってきてくださる主の姿がある。私たちも、日ごろの生活を献げ、また献金する。神さまに対しての応答だけでなく、他者のために祈り、周りの人とも主の平和を分かち合う。主がご自身のいのちをもって、私たちにいのちを与えてくださった、その営みに私たちも引き込まれ、人間としての在り方、すなわち人間としての幸せを、与えること（与え合うこと）、仕えること（仕え合うこと）に見いだす。そこに愛の姿がある▲着座式で中村新大司教から「みんなと一緒にやるんだ」という言葉があった。「ともに」と。私たちが新大司教に求めるところも大きいがしかし、私たちは求めるだけではなく、互いに与え合い仕え合い歩んでいくのだ。すべてを与え尽くされた主の愛に結ばれて。ともに歩もう。（馬）

カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

ウクライナのために祈る

教皇フランシスコの呼び掛けに心を合わせ、また、中村倫明大司教が示した「普段のミサやロザリオなど意向に加えてお祈りください」（2月25日）という方法をとるなどして、状況が悪化しているウクライナのために引き続きお祈りいたしましょう。

感謝と希望のうちに長崎大司教交代

髙見大司教から中村大司教へ

祈りと喜びに満たされて

ペトロ中村倫明大司教の着座式が2月23日（水）10時30分から浦上司教座聖堂でのミサの中で執り行われ、これによって、中村大司教が第10代長崎大司教（教区長）に就任した。

着座式ミサは新型コロナウイルス感染拡大防止のため参列者を制限して行われた。浦上教会の大聖堂には、中村倫明大司教、髙見三明名誉大司教、駐日ローマ教皇庁大使レオ・ボッカルディ大司教と参事官ヴェチェスラブ・トゥミル神父、前田万葉枢機卿、日本の14教区（札幌・高松の2教区は参加できず）から司教・被選司教、名誉司教、使徒座管理者、事務局長、また司祭団、修道者、信徒、来賓、そして聖歌隊などの奉仕者を含む約300人が集まった。

髙見大司教のあいさつ

入堂後、着座式の始めに髙見大司教があいさつし、ライブ配信の視聴者を含むすべての参加者に向けて感謝の意を伝えるとともに、次のように語った。

「わたしの在任中、教皇庁大使をはじめ、特に敬愛する兄弟である司教様方とともに日本の教会のために奉仕することができたこと、そして最後の最後まで温かいご配慮をいただきましたことを心から感謝申し上げます。まことにありがとうございました。また、教区の皆様方には本当にお世話になりました。皆様方のお祈りとご協力とご支援のおかげで務めることができました。なお、わたしの力が及ばなかったために大変ご心配をおかけしましたことをお詫びいたします。

皆様方が、新しい大司教様を支えながら、一つになって長崎教区が態勢を立て直し、ともに信仰共同体として成長していくことができるようお祈りしてまいります。今日は、特に、着座される中村長崎大司教様のために心を合わせてお祈りいたしましょう」

教皇フランシスコの任命書

続いて、長崎大司教に任命することが記された、教皇フランシスコによるラテン語の任命書が参列者全員に向けて顕示され、教皇大使ボッカルディ大司教が任命書を力強く読み上げた。その後、日本語訳が朗読され、任命書は朗読台横の書見台に、参列者に見えるよう置かれた。

バクルスの授与と着座

次に祭壇の前で、牧者のしるしであるバクルス（司教杖）が髙見大司教から中村大司教に手渡された。中村大司教は髙見大司教に伴われ、司教座に着座した。

尊敬と従順の表明

司祭、修道者、信徒の代表3人が、司教座に着座している中村大司教の前でそれぞれに言葉を述べ、参列者はそれに合わせて唱和し、新大司教に対する「尊敬と従順の表明」を行った。

その後、ことばの典礼へと続き、説教では中村大司教が今回新しく作ったバクルスについて触れた。大司教は、イエスの手と、肌の色が異なるいくつかの手がつながり合って形づくった十字架をあしらったこのバクルスと同じように「ともに手を取り合い、祈り合い、協力し合い、支え合って、主の道を一緒に歩んでいく、それがわたしたち」だと語り、ともに復活の主を体験していこうと呼び掛けた（説教全文は1面に掲載）。

補佐司教のときの紋章

ミサの終わりの祝賀式

聖体拝領後、祝賀式が行われ、最初に駐日ローマ教皇庁大使レオ・ボッカルディ大司教が日本語で、また、日本カトリック司教協議会会長の菊地 功大司教、司祭団を代表して教区本部事務局長の中濱敬司師、信徒を代表して教区評議会議長の片岡明俊氏がそれぞれ祝辞を述べた（3面に掲載）。そして、信徒を代表し、浦上教会の小学6年、富田海斗君が花束を、高校3年の小島ほの楓さんが記念品（下の写真）を中村大司教に手渡した。中村大司教はあいさつし、関係するすべての方々に感謝を述べ、教皇から与えられた長崎大司教の務めを果たしていくことができるよう「ともに、一緒に」歩んでいってほしいと招いた。最後に、髙見大司教に深い感謝の気持ちを伝え、互いに握手した（写真）。

この着座式ミサの様子は、参加できない方々と同じ時間を共有するためにインターネットを通じてライブ配信された（左のQRコードから視聴可）。配信中のチャット、コメント欄には、国内外からミサを視聴し祈りに心を合わせている様子がうかがえる書き込みもあった。

〝コロナ禍〟でいくつかの制限がある中でのミサだったが、多くの方々の協力によって支えられ、約18年間にわたり教区を導いた髙見大司教への感謝と、中村大司教を迎えた長崎大司教区の新たな出発の希望のうちに、祈りと喜びに満たされた着座式ミサとなった。

司教紋章の説明

DARE UT CHRISTUS, CUM CHRISTO

司教のしるしである帽子を下に構え人々に挨拶を行い奉仕いたします。

一粒の麦が人々の所に落ちともにいて自分を与えることによって、帽子から流れる房は麦の穂と変わり神の豊かな実りがあることを信じ願います。

何よりも、三位一体である神は、すべてを与え尽くすために、ともにいてくださいます。

三位一体の御父をラテン語 Pater のPで表し、キリストをギリシャ語のⲣで、そして、聖霊を愛のシンボルのハートで表しています。

この三位一体の神をもっとも証しするものとして聖書とマリアのシンボルをその下に添え、紋章すべてを聖体のシンボルで包み込みました。

わたしも三位一体の神を証し、自らを与えるパンになりたくて、紋章の言葉を、ラテン語で「キリストのように キリストとともに 与えること」にしました。

2021年12月28日　大司教に被選　ペトロ 中村倫明

◀浦上教会の中高生会と青年、司祭が約2000羽の折り鶴で作った記念品「ともに」

愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます

Ⅰヨハネ4・16

写真右上から左、右下へ

- 浦上に掲げられたバチカンの国旗
- 入祭にあたって着席する参列者
- 入堂
- 教皇の任命書の顕示、任命書を読み上げる教皇大使
- 髙見大司教から中村大司教へバクルスの授与
- 中村大司教が司教座に着座
- 司祭、修道者、信徒の代表らと共に参加者全員で唱和する「尊敬と従順の表明」
- 司祭、修道者、信徒による共同祈願
- 中村大司教からご聖体を受ける参加者

祝辞（抜粋）

駐日ローマ教皇庁大使
レオ・ボッカルディ大司教

親愛なるペトロ中村大司教様、今日、長崎の教会は、自らの子どもであるあなたが、教皇フランシスコによって、新しい大司教として司教の座にあげられたことを祝っています。

この素晴らしい大聖堂の中には、祭壇、朗読台、司教の椅子という、深く、豊かな、象徴的三つのシンボルがあります。

祭壇は、あなたが大祭司であることを思い出させます。あなたの祈りは、あなたが自分に委ねられた聖なる民のために、毎日神に捧げる燔祭です。こうしてあなたは〝munus sanctificandi〟人々を聖化する務めを果たします。

朗読台は、あなたが、神のみ言葉を宣べ伝える第一人者であることを思い出させます。あなたは神のみ言葉を瞑想し、宣べ伝え、教え、また説き明かさなければなりません。こうしてあなたは、〝munus docendi〟教える務めを果たします。

今日、あなたが座る司教の座は、あなたが牧者であり、導く者、臆病でなく、恐れることのない牧者であることを思い出させます。こうしてあなたは、〝munus regendi〟統治する務めを果たすのです。

（中略）今日、あなたは司教の座に就き、大きな責任と、前任の司教たちの大きな遺産を受け取ります。教会があなたに置いたその信頼にふさわしい者となってください！

この司教座聖堂は、無原罪の聖母に捧げられていますが、聖母があなたに寄り添い、あなたを祝福してくださいますように。アーメン！

司祭団代表
教区本部事務局長
中濱敬司師

中村大司教様、本日大司教の席に着座していただき、感謝申し上げます。

どの教区にもさまざまな問題はつきものですが、現在、長崎教区の諸問題につきましては、内からも外からも多くの方々の目を引きつけています。そんな中での着座式、「おめでとうございます」と言うより、「ありがとうございます」と司祭団を代表して、感謝の気持ちでいっぱいです。私たち司祭団も中村大司教様と心を合わせて、諸問題に向き合いたいと決意を新たにいたします。

（中略）最後に、「ありがとう」とは、漢字で「有り難き事、有り続けることが難しい」と書きます。本日の着座によって大司教として有り続けることは一層困難なことであり、孤独になることも多々あることでしょう。

私たちは日々のミサの中で、あらためて大司教様のために心を込めて祈り、大司教様と心を一つにして、長崎教区での神の国の実現のために共に働くことを司祭団一同、ここにお誓いして、つたない感謝の言葉といたします。

日本カトリック司教協議会
会長　菊地功大司教

中村大司教様、長崎大司教としての着座おめでとうございます。日本の司教団を代表して、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

この2年間、先行きが見通せない中で不安が広がり、希望を見いだすことが難しい時を、わたしたちは生きております。感染症対策のため、多くのことが取りやめになりました。教会も、少し大げさに過ぎるかもしれませんが、ポストコロナを見据えた時、さまざまな意味で、またさまざまな方面で、危機に直面していると感じます。

2019年11月に、教皇フランシスコは日本を訪れ、ここ長崎にもおいでになりました。教皇様は力強いいのちの言葉を語られ、出向いて行く教会であれ、神のいつくしみに満ちあふれた野戦病院であれと呼び掛けられました。教皇様の言葉には力があり、それに励まされてこれから日本全国で積極的に福音を告げ知らせるために行動しようと考えていた矢先でした。年が明けてすぐ、教会はこれまで経験したことのないような活動の停滞に突入いたしました。

その頃はちょうど中村大司教様も、長崎の補佐司教として任命された頃でありましたから、何か出鼻をくじかれたように感じられたのではないかと推測いたします。そしてこの困難な状況が続く中での、大司教としての新しい任命ですから、簡単ではないこれからの道行きを眼前にして、心細く思われていることと拝察いたします。

一緒に歩んでまいりましょう。日本の司教団もそうですし、司祭、修道者、信徒の方々と、一緒になって助け合いながら、困難な道に挑戦していきましょう。教皇様が呼び掛けるように、ともに歩む教会でありましょう。日本の教会にとって歴史と伝統ある長崎の教会のリーダーとして、力強く導いて行かれることを期待し、また神様が中村大司教様を祝福し、聖霊の照らしを持って護り導いてくださることを信じています。この危機的な状況の中だからこそ、神のいつくしみの具体的な行動の実践を念頭において、日本の教会のリーダーとして、中村大司教様がこれからさらなる活躍をしてくださることを期待しております。

信徒代表
教区評議会議長
片岡明俊氏

長崎教区の新しい牧者、指導者、管理者として中村大司教様をお迎えできることは、私たち信徒にとりましても大きな喜びです。信徒一同、心より歓迎いたします。

わたくし自身、初めて着座式に出席する機会を得ましたが、厳かな式の中で、座に着かれていく大司教様の姿を拝見し、また先ほどの説教を聞き、感銘を受けました。このような儀式の場に、自分が出席できたことをうれしく思います。

大司教様はこれから、使徒たちの後継者としての任務を、力強く始めようとされています。私たちも教えとご指導をいただきながら、「ともに歩む教会のために」努力し、大いに協力してまいります。

どうぞご健康に十分留意されて、長崎の「教会共同体」を強め、一つに導いてくださいますように。

中村大司教様の上に父である神の豊かな恵みをお祈りいたします。本日はおめでとうございます。

TENREI　Liturgy　TENREI　Liturgy　TENREI

ミサの式次第の新しい表現①
――「会衆」の場合

日本カトリック典礼委員会　嘉松　宏樹

今年の待降節第1主日から用いられる、新しい「ミサの式次第」。「会衆」としてミサをささげるにあたって新しくなる表現のおもな部分をご紹介いたします。

開祭

入堂した司式者が席に着き、十字架のしるしをした後で、「……皆さんとともに」と会衆に「あいさつ」すると、会衆は「また**あなたとともに**」と答えます。この「あいさつ」は、ミサの初め、福音朗読の前、奉献文の初め、平和のあいさつ、派遣の祝福の前、とミサの中に5回ありますが、いずれも「また**あなたとともに**」と答えます。

続く「回心の祈り」には一から三までの形式があります。よく用いられている「回心の祈り一」は、「全能の神と、**兄弟姉妹**の皆さんに告白します」と始め、後半も「聖母マリア、すべての天使と聖人、そして**兄弟姉妹**の皆さん、……」と唱えます。

「主よ、あわれみたまえ」で始まる「あわれみの賛歌」は、「いつくしみの賛歌（キリエ）」という新しい名前になります。「主よ、**いつくしみをわたしたちに**。キリスト、**いつくしみをわたしたちに**。主よ、**いつくしみをわたしたちに**」これが「いつくしみの賛歌」です。

主日や祝祭日に歌われる「栄光の賛歌（グロリア）」も本文が変わりました。このように始まります。「**天には**神に栄光、地には**み心にかなう人に平和。神なる主、天の王、全能の父なる神よ。わたしたちは**主をほめ、主をたたえ、主を拝み、主をあがめ、主の大いなる栄光のゆえに**感謝をささげます**」途中から次のように続きます。「……世の罪を**取り除く**主よ、**いつくしみをわたしたちに**。世の罪を**取り除く**主よ、**わたしたちの願いを聞き入れてください**。父の右に**座しておられる**主よ、**いつくしみをわたしたちに**。**ただひとり聖なるかた、すべてを越える唯一の主**、イエス・キリストよ……」その先はこれまでと同じ言葉で結ばれます。

「いつくしみの賛歌」や「栄光の賛歌」は、**歌うのであれば**、現在歌われている「あわれみの賛歌」や「栄光の賛歌」をそのまま用いることができます。

ことばの典礼

これまでいろいろな習慣がありましたが、これからは**朗読の終わりに朗読者が「神のみことば」と唱えると、一同は「神に感謝」と答えます**。第一朗読も第二朗読も同じです。

感謝の典礼

感謝の典礼は「供えものの準備」「奉献文」「交わりの儀」の三部構成になっています。

「供えものの準備」でパンとぶどう酒を祭壇に供えると司祭は会衆に「皆さん、……」と述べます。この部分も、会衆は沈黙したり答えたり、教会によって違いがありましたが、これからは**司祭に向かって**次のように答えます。「神の栄光と賛美のため、**またわたしたちと全教会のために、あなたの手を通しておささげするいけにえを、神が受け入れてくださいますように**」

「奉献文」の冒頭は、ミサの典礼式文本来の形に戻すために変更されました。司祭「主は皆さんとともに」会衆「また**あなたとともに**」**司祭「心をこめて」会衆「神を仰ぎ」司祭「賛美と感謝をささげましょう」会衆「それはとうとい大切な務めです」**丁寧に唱えて身に付けていきたい箇所です。

続く「感謝の賛歌（サンクトゥス）」の本文も新しくなりました。**「聖なる、聖なる、聖なる神、すべてを治める**神なる主。主の栄光は天地に満つ。**天には神に**ホザンナ。**主の名によって来られるかたに賛美。天には神に**ホザンナ」これも歌う場合は現在のものをそのまま用いることができます。

ほとんどの部分を司祭が唱える奉献文にも、会衆の声が求められます。聖別に続く「信仰の神秘」の部分です。新しいミサ式次第では三つの式文から選択するようになっているため、事前に、どの式文を用いるか決めておかなければなりません。ミサごとに選ぶか、一つを選んでずっとそれを唱えるかは、ミサをささげる共同体の自由です。

「交わりの儀」は主の祈りから始まります。続けて司祭が唱える祈りの結びに、会衆は「国と力と栄光は、**永遠に**あなたのもの」と唱えます。それから祈りが続きますが、司祭が「……**世々とこしえに**」と唱えたら、会衆は「アーメン」と答えます。この「……世々とこしえに」「アーメン」はイエス・キリストに直接向かう祈りの結びかたです。

パンの分割の時に歌われる「平和の賛歌（アニュス・デイ）」の本文は次のとおりです。「**世の罪を取り除く神の小羊、いつくしみをわたしたちに**」（くりかえし）、結びに「**世の罪を取り除く神の小羊、平和をわたしたちに**」現在の平和の賛歌を歌うこともできます。

聖体拝領前の信仰告白では、司祭が「**世の罪を取り除く神の小羊**。神の小羊の食卓に招かれた**人は幸い**」と唱えます。続くことばは二つの式文から自由に選択するようになっていますが、一つは現在のものと同じです。

（次回は「司式者」の場合です）

ともに歩む教会のため
世界代表司教会議（シノドス）に向けて

2023年10月開催の世界代表司教会議（シノドス）第16回通常総会。これに向けた歩みの一つとして、長崎教区では4月3日に教区代表者会議「特別教区シノドス」を予定していた（本紙2021年12月号既報）。しかしその後、長崎教区は同シノドスの実施方法を変更し、集まるのではなく別の方法を取って「地方教会レベル」での歩みを進めていくことを決めた。今回のシノドス全体の流れをあらためて紹介するとともに、今後の予定をお伝えする。

教皇の呼び掛け

2023年10月、世界代表司教会議（シノドス）第16回通常総会が「ともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教―」をテーマに開催される。このシノドスは、21年10月から23年10月まで三つの段階（地方教会、大陸・地域、世界代表司教会議）に分かれた、一つの大きな歩みとして行われるという。

教皇フランシスコは「わたしたちキリスト教共同体が、神のなさり方に倣い、歴史の中を歩みながら人類のさまざまな出来事を分かち合っているかを、教皇・司教・司祭・修道者・信徒たち、一人ひとりが自問しなければならない」（2021年10月10日シノドス開会ミサでの説教）と語られ、シノドスにおいて「出会う」「耳を傾ける」「識別する」という三つの態度が重要だと示された。

準備文書と手引書

昨年9月、教皇庁シノドス事務局は全世界の教会に対して、10の質問を含む「準備文書」と「手引書」を送った。日本カトリック司教協議会はこれらの文書を各教区シノドス担当者（長崎は教区本部事務局長）に送付。長崎教区本部事務局は、全世界の教区におけるシノドス開会（10月17日）に間に合うよう一連の文書を教区内の各小教区に送った。その後、10の質問に対する回答を各小教区評議会でまとめ、さらに各地区評議会でまとめてきた。

最終的には4月3日の「特別教区シノドス」でまとめることになっていた。しかし、長崎教区は、集まるのではなく別の方法を取って「地方教会レベル」での歩みを進めていくことを決め、3月16日付で同シノドス議員らに伝えた（左記参照）。

今後の予定

今後は、長崎教区としてのまとめを2022年6月4日までに日本司教団に報告する。その後は22年8月15日までに日本司教団のまとめ、23年3月アジアでのまとめ、23年10月バチカンでの総会へと続く。

「特別教区シノドス」実施方法変更について（要旨）

4月3日の「特別教区シノドス」開催準備のため、3月14日（月）に臨時顧問会を開いた。その中で、「すでに長崎教区では、7年前に同じテーマで教区シノドスを行っている。その時のシノドス提言に、今回まとめられたアンケート回答内容を加えていく形で、今回の長崎の特別教区シノドスのまとめとする。その作業を前回のシノドス実務者に委ねる」ことが決まった。

これにより、4月3日に開催予定だった特別教区シノドスは、同シノドス議員（昨年11月の臨時顧問会で選出された）の皆様全員に集まっていただくというやり方を取りやめることとした。今回のシノドスのまとめを日本司教団に提出した後、議員の皆様にはあらたに教区刷新の取り組みを行う推進者としてのご協力をお願いしたい。

今回のシノドスアンケートにも真摯に対応してくださった教区のすべての皆様方に感謝申し上げます。

2022年3月16日 長崎大司教による通達文書から

カリタスジャパン
ウクライナ危機人道支援
緊急募金受付開始

（2022年3月4日付カリタスジャパンのサイトから）

「ウクライナ危機人道支援」緊急募金の受付を開始しました。

報道によると、2月24日から始まったロシアによるウクライナへの大規模軍事侵攻により、これまでに600人近い市民が犠牲となり、100万人に上る人々が隣国に避難していると言われています。

ウクライナにおいてカリタスは2014年のロシアのウクライナへの攻撃以降、緩衝地帯に暮らす人々への緊急支援を続けていましたが、今回もいち早くウクライナ全土で長期・短期避難所の提供や、移動希望者の送迎、精神的ケア、離れ離れになってしまった家族の再統合、国境付近で待機する難民への食糧支援などを行っています。また、周辺国のカリタスと協働し、ヨーロッパからの食糧や衣料品の調達を開始しています。

カリタスジャパンは、ウクライナの状況と、ウクライナにおけるカリタスの活動を考慮し、〈ウクライナ危機人道支援〉緊急募金の受付を決定しました。お寄せいただいた募金は、ウクライナとその周辺国で行われる人道支援活動のために活用させていただきます。

募金受付口座

郵便振替　００１７０－５－９５９７９
加入者名　宗教法人カトリック中央協議会
　　カリタスジャパン

＊通信欄に「ウクライナ危機人道支援」と明記

〝希望をもって歩んでいく〟

福岡コレジオ卒業式

長崎教会管区司祭志願院福岡コレジオの卒業式が2月19日（土）に行われた。コレジオでの初期司祭養成準備課程（司祭志願期）を修了したのは森 翔真さん（太田尾小教区出身）。

みことばの祭儀を司式した高見三明大司教は祝意を表し、神と人々から受けたさまざまな助けを思い起こし、神が与えてくださる恵みによって、他者に心から奉仕する人になるようにと諭した。

卒業式では、在校生が森さんとの心温まるエピソードを思い返しながら感謝を伝え、エールを送った。森さんは、これまで召命の歩みに寄り添い、祈り、支えてくれた一人ひとりに感謝を表し、これからも神の恵みに信頼して、先輩神学生、コレジオ生たちと支え合いながら、希望をもって歩んでいきたいと抱負を述べた。この4月から引き続き、福岡カトリック神学院に進学する。

福岡コレジオは2022年度から福岡カトリック神学院に移転する。

〈福岡コレジオの新住所〉
〒814-0131
福岡市城南区
松山1-1-1
電話092-707-4639、ファックス092-873-7700

3人が卒業、在校生7人に

長崎カトリック神学院卒業式

2月28日（月）長崎カトリック神学院の卒業式が、中村倫明大司教を招いて行われた。卒業生は鈴木涼太郎さん（福岡・今村）、森本 想（こころ）さん（浦上）、中村福太郎さん（三井楽）の3人。鈴木さんは病気のため欠席となり、2人での卒業式となった。また、コロナ禍のために、参加者は所属教会主任司祭と各家族から1人に制限された。

中村大司教はお話しの中で自身の体験から、「元神学生の仲間が今でも神学生・司祭を大切にし、労をねぎらってくださる」と語り、「愛することは大切だが難しい。まずは友達になることから始めて『友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない』（ヨハネ15・13）というイエス様の愛に近づいていきたい。卒業生の3人はこれからも友達でいてください。将来どのような道に行ったとしても同級生は友達。司祭職は素晴らしい」と励ました。

また、院長の松田聡史師は「多くの方のお世話になったこと、その方々への感謝の心を忘れないように」と諭した。

卒業した長崎教区の神学生2人は4月から福岡コレジオに進学。小神学校の在校生は7人、新たな召命が待ち望まれる。

2022年度 定例司教総会

2月14～17日、東京・日本カトリック会館で日本カトリック司教協議会（会長・菊地 功大司教）の2022年度定例司教総会が開かれた。

総会では、日本のカトリック教会として環境問題に取り組むための方針を検討し、確認した。司教4人からなる「ラウダート・シ」チームが提出した提案文書は、総会での諸意見を加味し修正した上で書籍として出版、ウェブサイトでも公表される。

報告事項▼今年から来年にかけ、殉教者に関するいくつかの節目を迎えることから、その期間を「愛のあかし・元和（げんな）の大殉教400年」として記念する▼司祭養成基本要綱である『司祭召命のたまもの』の翻訳が整い、カトリック中央協議会出版部から発行する▼「子どもと女性の権利擁護のためのデスク」に寄せられた、各教区担当者からの「課題と提案―現場からの声」の報告▼2022年日韓司教交流会は11月15日から17日までを公式日程として予定。開催場所は東京教区。

審議事項▼司教協議会各種委員会委員長・担当司教を改選した▼新しい「ミサの式次第」などの実施に関する司教協議会会長名の「教令」を承認。日本カトリック典礼委員会が準備したミサの賛歌（ミサ曲）を承認。楽譜や音源の準備が整い次第、中央協議会のウェブサイトで公表される。「ミサの式次第」の旋律は、7月の臨時司教総会で検討予定▼『カトリック新教会法典』第6集改訂邦文について、正式な日本語訳として承認。この翻訳文は小冊子として中央協議会から発行するとともに、同協議会のウェブサイトに掲載する▼2021年度「司教のための社会問題研修会」を受け、外国にルーツがあり、親が在留許可を持たない、日本で生まれ育った子どもたちが日本で暮らし続けられるよう、法務大臣に提出する要望書の内容を検討した。常任司教委員会で最終文書を確認の上、全司教連名で提出し、署名運動を開始する。

カトリック病院としていのちを大切にする取り組み

第5回（最終回）

長崎市にある聖フランシスコ病院は、2019年に聖フランシスコ病院修道女会から長崎大司教区へ、その役割と病院理念が引き継がれたカトリックの病院です。「身体的にはもちろん、心的、霊的にも、〝神さまから与えられたいのちを大切にする〟ことを目指し、取り組んでいます（代表役員）」。同病院を広く知っていただくための連載・第5回（最終回）は、緩和ケア内科部長による紹介です。

緩和ケアと新型コロナ

緩和ケア内科部長
松添 大助

生まれて老いて死ぬ。全ての人に平等に与えられた定めですね。

かつて日本人の死因は、一位脳卒中、二位がん、三位心筋梗塞でした。それが1970年代にがんが脳卒中を抜いて一位となり、現在では二人に一人ががんにかかり、三人に一人はがんで亡くなる時代となりました。こう書くとただただ〝がん〟が増えてきたように思われますが、それとは少しニュアンスが違います。かつては脳卒中や心筋梗塞をおこすと致命的となっていたところが、医学の進歩によって命が救われるようになった。それで本来ならがんにかかる前に亡くなっていたけれど、長生きするようになったのでがんにかかる人が増えてきた。そういうことなのです。

医学は進歩したとはいえ、全てのがんが治るわけではありません。がんを患うと、残念ながら半数の患者さんは再発してがんで亡くなります。

末期がんの患者さんにとって、苦痛がないこと、望んだ場所で過ごすこと、人として尊重されること、家族や医療スタッフと良好な関係を保つこと、などは共通した思いです。

一方で、納得するまでがんと闘う、無理な治療はせず自然に過ごす、残された時間を知り準備をしたい、死を意識しないで過ごしたい、など患者さんにより異なる思いもあります。

緩和ケアは、患者さんひとりひとりの思いを尊重し、痛みをはじめとするさまざまな苦痛を和らげる、気持ちのつらさに寄りそう、患者さんだけではなくご家族に対しても支援する、生命を尊重し誰にも訪れる死を自然なこととととらえる。そういったことを実践しています。

ところがコロナ禍において世の中は一変しました。人と人との接触を避けることが求められ、患者さんと家族の面会も禁止されたのです。

リモートで話せばいい、という人もいます。もちろん話せないよりはましです。しかし、人間は社会や文化の発展を「言葉だけ」でつくってきたわけではありません。表情、間合い、身振り、雰囲気など同じ空間を共有し同じ空気を吸って相手との信頼を高めてきました。ところが今は、身体と身体の共鳴が失われて言葉だけでつながる社会をやむなくされています。

感染予防のためには、死にゆく人が家族と会うことさえも制限する。それを当たり前にすることは、死にゆく人の尊厳をないがしろにすることです。病院が面会制限を余儀なくされているなかで、私たちも心を砕いています。患者さんとご家族が穏やかに過ごせるように、より良い状況を模索する毎日です。

青年のための黙想会

各地区をオンラインで結んで

四旬節第1主日、3月6日（日）10時30分から教区青少年委員会（委員長・川端志範師）の主催による青年のための黙想会が大司教館で行われた。今回の黙想会は新型コロナウイルスの影響下で参加できない青年のために、遠方の地区については平戸地区は平戸ザビエル記念教会、上五島地区は青方教会、下五島地区は福江教会をオンラインで結び、リモート参加の上で同時に行われた。

黙想会のテーマは「『愛の喜び』家庭年」。西 経一師（長崎南山学園校長、神言修道会）の指導のもと、16人の青年たち（長崎3地区から11人、平戸地区2人、上五島地区2人、下五島地区1人）が参加し、午後の分かち合いの時には、感じた内容をそれぞれの場からリモートで共有することができた。

最後に各地でゆるしの秘跡を行い、ミサをささげ、午後4時頃解散した。

カトリック長崎大司教区 生涯養成委員会主催　2022年度　聖書講座のご案内

オンラインでも受講可 Zoom（ズーム）

土曜日 午後1時～2時30分　テーマ：ヨハネによる福音書　テキスト：聖書

	月　日	講　師	内　容
第1回	4月23日	髙見三明名誉大司教	概論
第2回	5月 7日	本田靖彦師	1章1～51節「序章」
第3回	5月21日	鼈甲屋賢治師	2章1節～5章18節「しるし」
第4回	6月 4日	キム・ドンウク師	5章19節～6章71節「イエスの権威」
第5回	6月18日	鶴﨑伸也師	7章1節～10章41節「イエスのメシア性」
第6回	7月 2日	松尾 太 師	11章1節～12章11節「復活のあらまし」
第7回	7月16日	キム・ボム師	12章12節～13章38節「エルサレム入城」「洗足式」
第8回	7月30日	岩崎晋吾師	14章1節～16章33節「訣別の説教」
第9回	8月20日	山口竜太郎師	17章1節～18章40節「イエスの祈り」「尋問・判決」
第10回	9月 3日	山添克明師	19章1節～21章25節「受難・復活・再会」

聖書講座は、木曜日の晩から土曜日のお昼に変更になりました。

◆場　所　カトリックセンター2階講堂
※新型コロナウイルス感染対策のため、定員になり次第締め切ります。オンラインでの参加はこの限りではありません。

◆受講料　5,000円（全10回分）　＊聴講可能（1回1,000円）

◆申込先　カトリック長崎大司教区 生涯養成委員会 Tel 095-841-7731
Fax 095-841-7732
✉ cnsy.kouza@gmail.com
← 聖書講座申し込みフォーム

申込期限　2022年4月15日（金）※オンライン受講は随時受け付けます。

2022年度は講座開催期間を2期に分け、前期（4月～9月）『聖書講座』、後期（9月～2月）『カトリック講座』の順で開催いたします。『カトリック講座』のご案内は6月下旬頃を予定しています。

〝信仰を証しできる大人へ〟

各地区で堅信式

平戸地区

2月20日（日）平戸地区の田平教会に髙見三明大司教を迎えて、中学生12人のための地区合同堅信式が行われた。地区の司祭団、受堅者、代父母、典礼奉仕者、そして家族から2人の参加に絞り、新型コロナウイルス感染対策を施して実施した。

髙見大司教はミサの説教の中で、「私が司式する公式の堅信式はこれが最後であり、感慨深いものがあります。堅信の秘跡は、洗礼の恵みを深く理解し、誇りに思い、伝えたくなる。その力を与えます」と優しく語り掛けた。

受堅者代表の今村悠人（ゆうと）さん（田平教会）は、「信仰を証ししていける大人へと成長したいです。大司教様、これからも温かく見守ってください」と決意をもって応えた。

長崎北地区

2月27日（日）14時から時津教会で長崎北地区合同堅信式が行われ、2月23日に長崎大司教に就任して間もない中村倫明大司教が司式した。北地区の小教区から、滑石9人、時津3人、長与4人、黒崎3人、出津2人の計21人が堅信の恵みにあずかった。

中村大司教は説教の中で、初めて主任司祭として赴任した時津教会での思い出を織り交ぜて話し、特に受堅者たちに向けて、神との交わり、信者同士の交わりを大切にするようにと勧めた。

佐世保地区（俵町・佐々）

佐世保地区では、3月6日（日）に堅信式が行われた。例年であれば佐々教会で地区内14小教区合同となるが、今回は、新型コロナウイルス対策として二会場での分散開催となり、午前10時から俵町教会で、午後1時30分から佐々教会でそれぞれ行われた。

俵町教会では中学生23人（三浦町7、大野4、天神1、大崎7、俵町4）が、中村倫明大司教から堅信の秘跡を受けた。大司教のユニークで分かりやすい説教に皆が笑顔になり、緊張感の中にも和やかな雰囲気で式が進められた。

3週間前に急きょ会場に決まった俵町教会では、準備などの対応に追われたが、〝コロナ禍〟の中でも、信徒の方々の協力によりスムーズに式を進行することができた。

佐々教会での受堅者は総勢36人（男子17人、女子19人）だった。

四旬節第1主日となった今年の堅信式。中村倫明大司教は、当日の福音「悪魔による三つの試み」にふれ、「イエス様は自分のためにできることを選ばず、私たち人類を選び取ってくださった」と熱く語った。

また、共同祈願でウクライナのために沈黙の祈りを共にささげるよう参加者たちを招いた。

人とフランス語に出会って―

長与教会信徒　戸口民也さん

教皇フランシスコとフランスの社会学者ヴォルトンとの対話をまとめた『橋をつくるために』を教皇来日の2019年に発行。「翻訳作業はある意味〝脚色〟みたいなものです。フランス語のリズムやイントネーションから元の言葉がもつニュアンスまで含め、原文の意味するところをできるだけ伝えられるようにと思いつつ訳しています」

最近ではフランスのカトリック司祭、ジャック・フィリップ神父の本『心の平和』と『内的自由 信仰・希望・愛の力』を自ら出版した。「フィリップ神父の本の中でもこの2冊は特に優れた霊的著作だと思っています」

新型コロナウイルスの影響で、予定していた出版社の業績が厳しく、発行の目途が立たなくなった。「こうなったら自分でやるしかない」と、各種手続きを経て昨年7月に立ち上げたのが「戸口書店」。編集、校正、表紙のデザインをし、データを印刷所へ。実際に仕上がった本を手にしたときは感無量だったという。

小学時代の『少年少女世界文学全集』に始まり、中高時代は日本や外国の小説や戯曲を読みあさった。文学、演劇、映画に興味が尽きず、早稲田大学でフランス文学を専攻。勉学に励む中、悲劇作家ラシーヌ（1639-1699）や思想家・科学者のパスカル（1623-1662）に出会い、神の存在について考えるようになった。また、大学時代の恩師との出会いについても「陽気でとても明るい方で、カトリック信者との最初の本格的な出会いはその先生とご家族でした」と語る。

その後、縁あって長崎外国語短期大学（当時）に就職。「長崎でフランス語教師になる、しかもフランス語専攻があるなんて、ほんとうに恵まれていました。後から考えると〝み摂理〟ですね」

信仰への歩みは「人との出会いがなかったら無理でした」と振り返る。長与教会が献堂された1986年の12月に家族で受洗。「私にとって長与教会は自分の家みたいなものです。信仰というのはやっぱり共同体の中で生きて、伝えられていくものなんだと思います」

昨年4月から長与小教区評議会議長を務めている。研究者としても現役で、長いこと中断したままの〝宿題〟も。「約50年前にスタートしたフランス17世紀演劇研究会にずっと参加しています。〝宿題〟を仕上げることができたら石垣の石の一つくらいにはなるでしょうか。あとは若手が引き継いでくれたらいいと思っています」と笑う。

妻・容子（やすこ）さんとはよく行動を共にし、話しをするという。自身の信仰の歩みを綴った『パスカルに導かれて』は「戸口民也のウェブサイト」で読むことができる。長崎外国語大学名誉教授。神奈川県大和市生まれ。75歳。

みことばにふれて 189

西田 祐尚（まさなり） 神父
（長崎教区司祭、福江教会）

ここ五島に赴任してから昔からの趣味である魚釣りを時々します。釣りをしていると一見違いが分からない魚がよく釣れます。例えば、よく言われるのが釣り人の間で「青物御三家」と言われる魚で、鰤（ぶり）、ヒラマサ、カンパチです。この魚はとても形が似ているので、慣れた人でないと、なかなかその違いが分かりません。本当によく似ている魚だと思います。この違いを見抜くには、やはりそれぞれの魚には特徴があるので、それを見て判断するしかありません。同じような魚であっても、それぞれの魚には特徴があって、「違い」がそこにはあるわけです。

ヨハネ福音書でイエス様は次のように言います。「これは天から降って来たパンである。先祖が食べて死んでしまったようなものとは違う」（6・58）と。つまり、イエス様は私たちに対してご自分のパンと私たち人間が普段食するパンとの「違い」を明らかにしています。私たち人間が食するパンとは、旧約の民が出エジプトの際、荒れ野で食べたパンのように、私たちの食事としてのパンです。つまり、有限の命のパン。ではイエス様の言うパン。それは福音に次のように書かれています。「わたしの肉はまことの食べ物、…これを食べるものは永遠に生きる」（6・55－58）と。つまり、イエス様のパンとは永遠の命に生きるためのパンであるということです。イエス様はこの永遠の命をもたらす私のパンこそ、「真の食べ物である」と言っているわけです。

さて、司祭となって、病気などで教会に来ることが難しい方に、月に何度かご聖体を届けに行きます。その時に、信者さんから次のように言われることがあります。「ご飯もおいしく食べられていますが、やはりご聖体は格別です」と。「私たちにとってやはり、ご聖体は特別なものです」という言葉を聞きます。私自身を振り返ってみると、時々、ご〇ミサをするとき、意識がご聖体や祈りからそれる時があります。祈りの心、ご聖体のありがたさ、神聖さを忘れそうになることがあるのです。しかし、私がいつもご聖体を持って行く人たちは、ご聖体のありがたさ、ご聖体とは何なのか、自分が有限の命のパンだけではなく、一番はご聖体によって養われているということを一番よく理解し、それを忘れていないのです。

私自身も日々の食事、釣った魚だけではなく、何よりこの私は永遠の命の糧であるご聖体に生かされている、その大切なご聖体を扱う仕事をしているという意識を強く持ちながら、これからも司祭職に励んでまいりたいと思います。

2020年
〝被爆75年から
5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

感謝

―香典返し―

長崎カトリック神学院
●鳥瀬文子様（上神崎）
故マリア鳥瀬スヤノ様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

長崎教区の皆様へ

新型コロナウイルスによる影響下、金銭的な面も含め、支援が必要な方は下記の「生活困窮者支援」窓口へお問い合わせください。お電話、メールで受け付けております。

受付時間　9：00～17：00（月～金曜日）
電　　話　070－8569－0522
メ ー ル　cnkh.committee@gmail.com

カトリック長崎大司教区福音化推進部
（担当：片岡）

CALIS Catholic Life Service

カリス通信　4月号
カトリック信徒傷害見舞金制度のご紹介

カリスでは、教会の皆様を対象に「カトリック信徒傷害見舞金制度」をご提供しております。教会には、信徒の皆様は勿論、一般の施設利用者、訪問者（当該教会の神父・助祭、有給の教会事務職員、清掃・修繕業者等を除く）といった多くの方たちが、教会施設利用者として教会に訪問されます。本制度は、教会の福音宣教活動を支援するため、教会施設内で生じた事故により、ケガをした教会施設利用者への見舞い金等をお支払いする制度です。

＜主な保険金のお支払い事例＞
• 部屋と廊下の段差につまずき転倒し、大腿骨を骨折した。
• ファミリー祭りの設営を手伝った方が、設営中に転倒し腰を負傷した。
• 信徒会館ホールで、テーブル脚部に足がかかり転倒して右腕を負傷した。
• ストーブを持ち上げて移動する際、電源コードにつまずき転倒し腰を負傷した。
• ミサの後、教会駐車場で信徒が転倒。左腕、左足と骨折した。
• 雨の日、園庭の敷石を歩いていたところ、滑って転び肩を打撲した。

＜補償の対象となる教会施設内で行う具体的な行事の例＞
• ミサ・典礼：土日・平日のミサ、洗礼式、堅信式、結婚式、叙階式、復活祭、クリスマス　等
• 例会：黙想会、聖書研究会、祈りの会　等
• 行事・催事：バザー、祝賀会、歓送迎会、研修会、クリスマス会、七五三、成人式、セミナー、ボーイ&ガールスカウト活動　等

＜お支払いする見舞金の種類＞
①被災者対応費用　②被災者傷害見舞費用および傷害見舞費用

ご加入者は、小教区単位になり、約500近くの教会にご加入いただいております。本制度は毎年6月1日開始ですが、期間の途中でもご加入いただくことが可能です。

※本ご案内は「レジャー・サービス施設費用保険」についてご紹介したものです。ご契約にあたっては、パンフレットおよび各保険の「重要事項説明書」をよくお読みください。

カトリック共済システム
有限会社カリス
〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館
連絡先 0120-77-0033
カトリック共済システム 検索
21-TC10052
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
リスク・補償に関して お気軽に お問い合わせください